

南川の獅子舞

境内の雨乞い池や、神社に伝わる雨乞い伝説と併せて、龍神と縁の深い獅子舞で、頭は龍の形です。南川の諏訪神社は、小名花桐(あなぎり)に鎮座しているため「花桐の笹楽獅子舞」とも呼ばれます。



実施日 宵宮8月16日 本祭8月17日

場所 諏訪神社(飯能市南川1041)

北川の獅子舞

岩井沢の観音堂から、柏木の地藏不動堂、藤原の喜多川神社へと2日間かけて廻ります。荒々しく躍動感ある舞が特徴です。太鼓の音は大波を、笹楽の音はせせらぎを、笛の音は風の音を表現しています。



実施日 8月17日前後の土・日曜日

場所 喜多川(きたがわ)神社(飯能市北川971)



飯能の獅子舞



獅子舞は、一般的に疫病や天災等の厄除けや、五穀豊穡、子孫繁栄を願い、行われてきた郷土芸能です。関東地方に多い「三匹獅子舞」は太鼓を叩きながら3人1組になって踊るもので、伴奏は笛と笹楽(ささら)という竹の楽器が奏でます。

埼玉県は「三匹獅子舞」が非常に盛んで、飯能市内の獅子舞も「三匹獅子舞」が主流です。下名栗の獅子舞は埼玉県の指定文化財、他の地域の獅子舞は飯能市の指定文化財です。江戸時代から受け継がれてきた貴重な無形民俗文化財、飯能市の獅子舞を紹介します。

※日程と演目は変更になる場合があります。



あてら 阿寺の獅子舞

大きくいかつい容貌の龍の頭に、鳥羽を連ねて龍の胴を表現しているのが特徴で、大振りな「型」を決めていく様式的な美しさを持った獅子舞です。人々の願いを聞き届ける「願獅子」であるといわれています。

実施日 10月第2日曜日

場所 阿寺諏訪神社
(飯能市長沢1840)



てつこうきやはん わらじ 飯能諏訪八幡神社の獅子舞

「五穀豊穡・町内安全・天下泰平」と書かれた万灯を先頭にきらびやかな行列を組みます。多くの子どもが諸役として参加します。

実施日 休止中

場所 諏訪八幡神社
(飯能市飯能263)



みやしろ 三社の獅子舞

いかめしい獅子の頭を戴いて、時に大振りに、時に優雅な手さばき、足さばきで舞う獅子舞です。また、本祭の夜になると御輿が高麗川の河原で禊(みそぎ)を行う「川瀬祭り」があります。獅子舞は行列に同行し、禊を行った御輿の前で「弊掛かり(へいがかり)」を奉納します。

実施日 7月最終土曜日

場所 我野(あがの)神社
(飯能市吾野226)





石原の大神楽獅子舞

頭を被る人と垂れ布を被って後足を務める人の2人1組でひとつの頭を操る、県内では珍しい大神楽系の獅子舞です。小名石倉と小名原市場の辻々、家々を祓(はら)って廻ります。各家では座敷で幣束を振り、「マイコメ」を舞い、家人の頭を噛む動作をして厄除けとしています。

実施日 1月第2日曜日
場所 石倉・原市場地区



檜渕諏訪神社の獅子舞

露払いのテングが獅子舞行列を先導し、名栗川の淵に面した古い参道から神社へ入ります。獅子舞は上名栗の星宮神社から伝授されたとつたえられています。

実施日 8月17日後の日曜日
場所 檜渕諏訪神社
(飯能市上名栗1065)



小瀬戸の獅子舞

花笠で囲んだ「場」の内外へ舞い巡る動きが中心となった獅子舞です。女性の着物のしごき帯を蛇に見立て、獅子がこれを呑む動作をする「呑龍(どんりゅう)」という演目が特徴的です。子ども獅子を行っており、郷土芸能を学んだ子どもたちの発表の場としています。

実施日 10月15日付近の日曜日
場所 子安浅間(こやすせんげん)神社 (飯能市小瀬戸230)



下名栗の獅子舞

埼玉県指定無形民俗文化財であり舞庭全体を使い、舞い動く獅子舞です。最後に舞う「白刃(しらば)」は、真剣を持った太刀遣い2人と獅子が組み合って勇士に舞うもので、迫力満点です。最後には獅子が真剣をくわえて舞います。



実施日 8月最終土・日曜日
場所 諏訪神社(飯能市下名栗1050)

星宮・諏訪神社の獅子舞

獅子頭は龍形です。演目「女獅子隠し」「屏風返し」は、花園に見立てた花笠の中に女獅子が見え「ホーイ」と呼ばれる道化が加わって男獅子二匹が争う筋立てで、最後には小太夫が詫証文(わびしょうもん)をいれ、和順して終わります。



実施日 星宮神社9月最終日曜日
諏訪神社4月第3または第4日曜日
場所 星宮神社(飯能市上名栗217-1) 諏訪神社(飯能市上名栗3171)